

点火スイッチを押す(右から)
森田市長、松井会長、蓮井社
長、原工場長

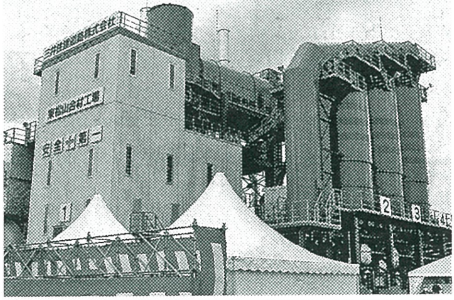


1992年に完成した旧
プラントが老朽化したた
め、昨年7月から隣接地に
新施設を建設していた。プ
ラント本体工事の設計・施
工は日工が担当。1時間当
たりの生産能力は加熱アス
ファルト合材96ト、再生ア
スファルト合材120ト。

東松山合材工場の 新プラント火入れ

三井住建道路

三井住建道路が関東支店
東松山合材工場(埼玉県東
松山市)に建設していた新
アスファルトプラントが完
成した。燃料を重油から都
市ガスに変更するなど環境
配慮型の最新設備を導入。
旧施設に比べ二酸化炭素
(CO₂)排出量が45%程
度削減できる。22日にプラ
ントの火入れ式が行われ、
関係者ら約30人が出席して
無事完成を祝った。23日に
本格稼働する。



完成したアスファルト
プラント

合材サイロは貯蔵能力が80
ト、100ト、120トの
3基を備える。

CO₂削減など環境に配
慮した最新設備を導入し
た。都市ガスへの燃料転換
に加え、脱臭炉の排熱を燃
焼に再利用するなど環境対
策に注力。脱臭炉の熱交換
効率を高めるため熱交換器
も1台から2台に増設し
た。

火入れ式では、三井住建
道路の松井隆幸代表取締役
会長と蓮井肇社長、原正宏
東松山合材工場長、森田光
一東松山市長が点火スイッ

チを押した後、関係者代表
が神前に玉串をささげて安
全を祈願した。

直会で蓮井社長は「環境
に配慮した都市型プラント
に一新した。今後もお客さ
まの多様なニーズに応えな
がら、これまで以上に安全
で高品質な製品を提供して
いく」と述べた。

CO₂を45%削減

東松山 合材工場 新プラント完成

三井住建道路
東支店



三井住建道路関東支店は、東松山合材工場（埼玉県東松山市）内に建設を進めていた新アスファルトプラントが完成し、22日に火入れ式を執り行った。

新プラントは、CO₂排出量の少ないガスバーナーと経済産業省が推奨するトップランナーモーターを設置するなど環境負荷の低減に配慮しており、旧プラントと比較してCO₂を45%削減する。プラントの1時間当たりの生産能力は、加熱アスファルト合材96ト、再生アスファルト合材120ト、合材サイロは、80ト、100ト、120トを各1基ずつ備えている。環境に配慮し、CO₂排出量削減では、燃料を重油からガスとすることによって30%削減し、脱臭炉熱交換器を1台から2台にすることによる脱臭排熱の熱交換効率向上で10%、脱臭炉の排熱を回収し、Rバーナ燃焼エアとして利用することにより5%削減する。安全対策では、「みえい



点火スイッチを押す関係者ら

る君」で合材積込時のダンク停車位置、積込回数を表示するなどしている。火入れ式には、関係者30人が出席。火入れの儀では、三井住建道路の松井隆幸会長と

連井肇社長、森田光一東松山市長、原正宏東松山合材工場長が点火スイッチを押した。直会（なわらい）であいさつした連井社長は、「プラントの老朽化への対応と今後の事業拡大を見据え、新プラントを建設した。人と環境に配慮した都市型プラントであり、今後も多様なニーズに応え、これまで以上に安全で高品質なものを提供していく」と述べた。

来賓の森田市長は、「技術の粋を集めた新プラントであり、地元の建設事業に貢献することを期待する」と祝辞を寄せた。

連井肇社長は、「無事故で工事を完了した。これからも技術を研鑽し、貢献していきたい」と語った。事業主謝辞として、松田雄二常務執行役員関東支店長は、「社員が一丸となり、環境負荷を低減した新プラントで、安全第一で地域に貢献していく」と述べた。新プラントは、きょう23日から本格稼働する。旧プラントについては、今後、解体する。原工場長は、「安全第一で品質を確保し、新プラントで貢献していきたい」としている。